

＜経済解析室ニュース＞平成29年3月31日

平成29年2月の鋳工業生産は、前月比2.0%上昇、1月の低下幅を大きく上回る上昇。先行き計画では、3月に若干低下するものの、4月計画は平成26年の駆け込み需要期を超える、ここ数年にない高い水準へ。

鋳工業生産は、前月比2.0%と高めの上昇

平成29年2月の「生産」は、季節調整済指数102.2、前月比2.0%上昇でした。今年1月は、昨年7月以来の6か月ぶりの前月比低下となりましたが、2月はその低下幅を大きく上回る上昇幅を見せました。1月と2月の生産指数の平均は、101.2で、昨年第4四半期の指数値99.6を大きく上回っていました。このペースであれば、今年第1四半期の生産も前期比プラスとなる可能性が高いものと思われます。

2月の鋳工業出荷は、指数値99.1、前月比マイナス0.1%低下でした。1月は前月比0.3%上昇でしたので、2か月ぶりの低下となります。出荷の1、2月平均も99.2で、昨年第4四半期の出荷指数98.8を若干上回っています。3月の指数レベルが大きく低下しなければ、出荷においても前期比上昇を期待できるかも知れません。

3月は減産計画だが、計画は上方修正、4月計画は急上昇

今年3月の生産計画については、前月比マイナス2.0%低下を見込んでいます。前回調査時点の3月計画と今回調査の3月計画を比較すると1%上方修正となっており、3月計画値も増加しています。予測修正率も2か月連続上方修正となっており、比較的強気の生産計画になっています。このため、計画値に含まれるバイアスを補正すると、前月比マイナス0.3%程度の低下に収まるという試算結果になっています。

4月の生産計画については、補正計算なしで、前月比8.3%の上昇を見込むという計画になっています。この4月の計画レベルは、消費税率引上げ前の生産実績を大きく超えるものとなっており、計画段階のものとは言え、今年4月の生産水準はここ数年にない高い水準になっていると言えます。

輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、化学工業が 上昇

2月の鉱工業生産上昇への影響度、寄与が特に大きいのは、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、医薬品を除く化学工業でした。上昇寄与全体の半分弱（8分の3）が、輸送機械工業の上昇寄与でした。残りの上昇寄与をはん用・生産用・業務用機械工業と化学工業で2分している状態です。上昇寄与4位の非鉄金属工業の寄与は、化学工業の7分の1よりも小さく、文字通り、2月の生産上昇はこの3業種の前月比上昇によるものと言って良いと思います。

先行き2か月の業種ごとの生産計画を見えます。

3月の生産計画では、11業種中9業種で生産を減らすという計画になっています。特に低下寄与が大きいのは、輸送機械工業と電気機械工業です。輸送機械工業では、普通乗用車と小型乗用車が主たる低下要因です。電気機械工業では、工場や施設用などの電気設備が減産要因です。他方、3月の生産計画では情報通信機械工業が大きな生産計画上昇寄与を見せており、コンピュータ系が増産計画になっているほか、多少、携帯電話の増産も上昇要因となっています。

4月の生産計画では、製造工業全体は3月計画比8.3%上昇で、11業種中9業種で生産を増やすという計画になっています。特に上昇寄与が大きいのは、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、そして電子部品・デバイス工業となっています。

基調判断は据え置き「持ち直しの動き」

2月の鉱工業出荷の勢いは少し弱いようですが、在庫循環も「在庫積み増し局面」となっており、生産活動は調子の良い時期のものとなっています。先行き見通しについても、3月に若干の生産低下はあるものの、4月には大きく回復するという計画になっています。これらを踏まえ、基調判断については、「持ち直しの動き」で据え置きたいと思います。

結果概要のページ

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

参考図表集

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/reference/slide/result-iip-sanko-201702s.html>

マンガ「ビジネス環境分析にも使える！鉱工業指数(IIP)」

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/slide/20170329iip_manga2017.html

○問合わせ先

経済産業省 大臣官房 調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1511（代表）（内線 2851）、03-3501-1644（直通）

FAX：03-3501-7775

E-MAIL: gqcebc@meti.go.jp